

大学生の入学時の意識

—2008年度入学生調査から5年間の継続調査にみる変化—

Awareness of Freshmen at the Entrance into University:

Changes of 5 years continuous survey from the 2008 school year.

杉山佳菜子*・二宮 克美**・竹市 良成**・小出 龍郎***

要約 本研究は、愛知学院大学に入学する新入生の意識について2008年度から5年間の継続調査の結果である。調査協力者は人文・社会科学系学部の9,449名であった。主たる結果は、次のとおりである。(1)大学への進学理由には5年間変化がなかった。(2)最も選ばれた進学理由は、資格や免許を得るためであった。その傾向は年々強くなっている。(3)大学を選ぶ際に重視した点は、学びたい学部学科やコースがあるかどうかであった。(4)就職を意識する傾向も年々強くなっていた。大学進学に際し、目的をもって考えるようになっている。

キーワード 新入生の意識、大学進学理由、就職意識、継続調査、大学生

<問題および目的>

2012年文部科学省発表の「学校基本調査」によると、2012年度の大学進学率（現役）は47.7%となっており、多くの高校生が社会に出る前にさらに何かを学ぼうと大学に進学している。しかし、その一方で大学生の質の低下についても問題とされている。

二宮・高橋・桑村・稲葉・山本・宮沢(2006)では、大学生の進学動機が大学の授業への意識に影響することを明らかにしている。進学動機が曖昧であるほど授業に対して安直な考え（消極的な態度）をとるようになり、反対に進学動機が明確な学生は授業への積極的な要望を出すとしている。大学生の学力低下や受講態度が問題視されているが、この背景には、進学時にはっきりとした動機を持たずに大学に入学しているということが考えられる。また、大学の入試制度の多様化により、多くの学生に入学のチャンスが与えられていることも、学生の質や大学への期待や、意識を多

様化させている一因だろう。

近年の高卒の就職の難しさや企業の給料形態など日本の制度や金銭的に余裕のある親世代が多いことも大学進学志向を高める要因として考えられるが、実際に大学生の大学進学理由はなんだろうか。京都大学高等教育研究開発推進センターと公益財団法人電通育英会が共催して2010年に実施した大学生のキャリア意識調査によると、大学1年生の入学前に大学進学の目的として最も重視した点では「就職に有利」(16.0%)、「就職に必要な勉強をする」(14.1%)、「教養や視野の拡大」(12.1%)となっている。したがって、純粋に学問を究めたいという学生ばかりではないことが想像できる。

そこで本研究では、入学時に調査した「大学進学の理由」と「大学を選ぶ際に重視したこと」の5年間の継続調査をもとに、近年の大学生の入学時の意識の変化を検討する。

*愛知学院大学大学院 総合政策研究科 研究員 **愛知学院大学 総合政策学部 教授 ***愛知学院大学 教養部 教授

<方法>

1. **調査協力者** 愛知県内のA私立大学文系学部
の入学生9,449名(2008年度2,569名;男子1,760
名,女子776名,不明33名. 2009年度1,875名;
男子1,185名,女子630名,不明60名. 2010年
度1,778名;男子1,178名,女子591名,不明9名.
2011年度1,677名;男子1,125名,女子544名,
不明8名. 2012年度1,550名;男子997名,女
子544名,不明9名).
2. **調査時期** それぞれの入学年度の入学式当日
もしくはオリエンテーション時に実施.
3. **調査項目** (1) 大学進学の原因:「専門的な
知識や技術を身に付けたいから」、「多文化・
異文化に関する知識の理解を深めたいから」
などの23項目(表1参照:2008年度は11項目)
に対して「あてはまる」、「どちらともいえ
ない」、「あてはまらない」の3件法で回答を
求め、順に3点から1点の得点を与えた.
(2) 大学進学の際に重視したこと:大学進学
の理由23項目から、その中で最も重視した項
目を3つまで選択させた(2008年度は選択す
る数の制限なし).
(3) クラブ・サークル活動:入学後のクラブ・
サークル活動について「参加する(してい
る)」、「参加しない」、「わからない(決めて
いない)」の3つの選択肢から回答を求めた.
(4) 入学した時の気持ち:「あなたが本学に
入学した時のお気持ちは、次のどれに近いで
すか」という質問に対して「ぜひ入りたいと
思って入学した」、「まあ満足して入学した」、
「4年間の学生生活に期待して入った」、「や
や不満だったが入学した」、「その他」の選択
肢から回答を求めた.
(5) 大学を選ぶときに重視したこと:「学び
たい学部・学科コースがある」、「就職支援体
制が整っている」、「歴史・伝統がある」など
34項目(表5参照)に対して「あてはまる」、
「どちらともいえない」、「あてはまらない」

の3件法で回答を求め、順に3点から1点の
得点を与えた.

(6) 大学を選ぶときに決め手にしたこと:大
学を選ぶときに重視したこと34項目からその
中で入学の決め手となった項目5つまで選択
させた(2008年度は選択する数の制限なし).

<結果および考察>

1. 大学進学の原因

大学進学の原因23項目の5年間の平均値を表1
に示す. すべての年度において最も得点が高かつ
たのは「将来のために資格や免許を取得したいか
ら」であり(2008年度=2.68, 2009年度=2.73,
2010年度=2.75, 2011年度=2.78, 2012年度=
2.77), 反対に最も得点が低かったのは「なんと
なく」であった(2008年度=1.66, 2009年度=1.70,
2010年度=1.74, 2011年度=1.60, 2012年度=
1.62). このことから大学生の進学理由は学問の
研究よりも資格や免許の取得であり、5年間の間
に意識の変化はみられない. また、「周囲のみんな
が行くから」や「なんとなく」といった項目の
得点は低く、なんらかの目的をもって入ってきて
いる学生がほとんどであろう.

2009年度からは「学士力」に関連した項目を追
加した(項目11から項目22までの12項目). いず
れの年度も「知識や情報を利用して問題を解決す
る力を身につけたいから」や「自らを律して行動
できるようになりたいから」といった「態度・志
向性」での得点は高い. しかし「自然や社会的事
象について数量を用いて表現することができるよ
うになりたいから」や「ICTを用いて収集した情
報をモラルに従って効果的に活用する力を身に
つけたいから」という「汎用的技能」の数量的スキ
ルや情報リテラシーを学びたいという意識が薄
い. どんなスキルを習得するかということよりも、
大学卒業という履歴や資格といった目に見える部
分を求めて大学に入学しているということだろ
う. これは前述の大学生のキャリア意識調査
(2010)の結果に通じる部分がある.

表1 大学進学の原因

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)
1. 専門的な知識や技術を身につけたいから	2.59 (0.59)	2.62 (0.59)	2.64 (0.56)	2.67 (0.55)	2.72 (0.53)					
2. 専攻する学問を研究したいから	2.29 (0.68)	2.37 (0.63)	2.41 (0.63)	2.40 (0.65)	2.48 (0.62)					
3. 将来のために資格や免許を取得したいから	2.68 (0.56)	2.73 (0.51)	2.75 (0.49)	2.78 (0.48)	2.77 (0.49)					
4. 幅広い教養を身につけたいから	2.51 (0.61)	2.58 (0.57)	2.61 (0.55)	2.66 (0.54)	2.67 (0.53)					
5. 社会に出たとき、学歴が必要だから	2.44 (0.67)	2.52 (0.64)	2.55 (0.62)	2.56 (0.62)	2.58 (0.61)					
6. 安定した職業に就くためには学歴が必要だから	2.49 (0.66)	2.57 (0.62)	2.58 (0.60)	2.59 (0.60)	2.61 (0.59)					
7. 学生生活を楽しみたいから	2.64 (0.56)	2.67 (0.55)	2.67 (0.54)	2.66 (0.54)	2.70 (0.52)					
8. 周囲のみんなが行くから	1.80 (0.77)	1.82 (0.76)	1.89 (0.91)	1.77 (0.75)	1.80 (0.77)					
9. 先生や家族が勧めるから	1.78 (0.75)	1.84 (0.75)	1.89 (0.75)	1.81 (0.74)	1.86 (0.93)					
10. すぐに社会にでるのが不安だから、とりあえず進学する	2.04 (0.79)	2.09 (0.80)	2.12 (0.78)	2.04 (0.79)	2.03 (0.80)					
11. 多文化・異文化に関する知識の理解を深めたいから	—	2.08 (0.74)	2.11 (1.02)	2.09 (0.70)	2.13 (0.72)					
12. 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を深めたいから	—	2.09 (0.68)	2.12 (0.68)	2.11 (0.70)	2.16 (0.70)					
13. 日本語でのコミュニケーション・スキルを養いたいから	—	2.16 (0.69)	2.22 (0.68)	2.23 (0.70)	2.32 (0.69)					
14. 数量的に示された自然や社会的現象を理解する力を身につけたいから	—	1.99 (0.82)	2.01 (0.67)	2.00 (0.68)	2.01 (0.70)					
15. 自然や社会的現象について数量を用いて表現することができるようになりたいから	—	1.88 (0.67)	1.93 (0.66)	1.91 (0.68)	1.90 (0.69)					
16. ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できるようにしたいから	—	2.03 (0.71)	2.05 (0.68)	2.07 (0.71)	2.06 (0.71)					
17. ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力を身につけたいから	—	2.01 (0.68)	2.04 (0.68)	2.06 (0.69)	2.06 (0.69)					
18. 理論的に考える能力を身につけたいから	—	2.32 (0.67)	2.34 (0.67)	2.38 (0.66)	2.43 (0.65)					
19. 問題を解決する能力を身につけたいから	—	2.46 (0.64)	2.48 (0.64)	2.56 (0.61)	2.57 (0.60)					
20. 知識や情報を利用して問題を解決する力を身につけたいから	—	2.49 (0.63)	2.49 (0.63)	2.56 (0.61)	2.62 (0.56)					
21. 自らを律して行動できるようにしたいから	—	2.54 (0.62)	2.54 (0.61)	2.60 (0.57)	2.64 (0.56)					
22. 社会の一員としての意識を持つようになりたいから	—	2.50 (0.62)	2.53 (0.61)	2.57 (0.58)	2.59 (0.59)					
23. なんとなく	1.66 (0.74)	1.70 (0.76)	1.74 (0.76)	1.60 (0.73)	1.62 (0.75)					

■は得点が最も高かったもの。

□は得点が最も低かったもの。

2. 大学進学の際に重視したこと

大学進学理由の中から重視した項目を3つまで選択させた。その人数の分布を表2に示す。表中のパーセンテージは調査協力者を分母に割合を算出してある。すべての年で「将来のために資格や免許を取得したいから」で最も選択した割合が多く(2008年度=39.3%, 2009年度=46.5%, 2010年度=47.2%, 2011年度=49.1%, 2012年度=50.9%), ほぼ半数が選択している。これは大学進学の理由と一致する結果である。

反対に選択した割合が最も少ない項目は、2008年度は「なんとなく」(3.2%), 2009年度, 2010年度は「自然や社会的事象について数量を用いて表現することができるようになりたいから」(2009年度=0.5%, 2010年度=0.4%, 2011年度=0.5%), 2011年度と2012年度は「自然や社会的事象について数量を用いて表現することができるようになりたいから」(2011年度=0.5%, 2012年度=0.5%)と「数量的に示された自然や社会的事象を理解する力を身につけたいから」(2011年度=0.5%, 2012年度=0.5%)であった。2009年度以降の選択した割合の少ない項目は「学士力」の項目であり、「学士力」は大学生にとって進学の際に重視しているものではないことが示唆される。

3. クラブ・サークル活動への意識

入学後のクラブ・サークル活動への参加の意識について表3に示す。いずれの年度も半数が参加を決めていて、半数が決めていないといった結果であり、参加しないと決めているのは5%前後である。

大学生活が始まると、中にはバイト中心の生活を送り、ほとんど大学に来ないという学生もいるが、入学時の時点では学業以外の課外教育活動も積極的に参加しようとする学生が多い。また、就職活動の面接時にサークル活動などの課外教育活動について聞かれるということもあり、なんらかの活動に参加しようとする学生もいるだろう。

4. 入学したときの気持ち

入学したときの気持ちについて表4-1に示す。どの年度も「まあ満足して入学した」という回答が多い(2008年度=26.9%, 2009年度=27.9%, 2010年度=28.0%, 2011年度=31.0%, 2012年度=30.9%)。「ぜひ入りたいと思って入学した」と合わせると半数以上の学生が志望校だったということだろう。

反対に「やや不満だったが入学した」ものは毎年20%程度いる。受験した入試別の入学したときの気持ちを表4-2に示す。「やや不満だったが入学した」者は、一般入試の受験者は推薦入試の受験者に比べて2倍となっている。このことから、「やや不満だったが入学した」はすべりどめの学校として考えていたということだろう。入学時からネガティブな感情があると、学業へのモチベーションが低くなり、成績が振るわなかったり、授業の欠席や退学につながることも予想される。このような学生には十分なフォローが必要だろう。

5. 大学を選ぶときに重視したこと

大学を選ぶときに重視したこと34項目の平均点を表5に示す。すべての年度で「学びたい学部・学科コースがあるから」で最も平均点が高かった(2008年度=2.65, 2009年度=2.69, 2010年度=2.70, 2011年度=2.75, 2012年度=2.81)。反対に最も平均点が低かったのは2008年度から2011年度は「学費が安い」(2008年度=1.62, 2009年度=1.58, 2010年度=1.61, 2011年度=1.53), 2012年度は「アルバイトをする場所が近くにある」(1.57)であった。さらに「施設・設備が充実している」や「キャンパスがきれい」、「キャンパスが広い」といった項目も得点が高くなっている。大学進学の原因では就職(将来)を意識したと思われる回答をしていたが、重視したことはそれほど平均値が高くない。大学選びには就職支援体制よりも学びの設備などの面で判断しているということだろう。また、学費が多少高くても質のいい、学費に見合った教育を求めていると考えられる。

表2 大学進学の際に重視したこと

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)
1. 専門的な知識や技術を身につけたいから	873 (34.0)	687 (36.6)	700 (39.4)	672 (40.1)	663 (42.8)					
2. 専攻する学問を研究したいから	449 (17.5)	378 (20.2)	328 (18.4)	318 (19.0)	329 (21.2)					
3. 将来のために資格や免許を取得したいから	1011 (39.3)	872 (46.5)	839 (47.2)	823 (49.1)	789 (50.9)					
4. 幅広い教養を身につけたいから	580 (22.6)	322 (17.2)	323 (18.2)	348 (20.8)	345 (22.3)					
5. 社会に出たとき、学歴が必要だから	544 (21.2)	376 (20.1)	337 (19.0)	323 (19.3)	274 (17.7)					
6. 安定した職業に就くためには学歴が必要だから	599 (23.3)	419 (22.3)	382 (21.5)	363 (21.6)	333 (21.5)					
7. 学生生活を楽しみたいから	797 (31.0)	530 (28.3)	487 (27.4)	469 (28.0)	405 (26.1)					
8. 周囲のみんなが行くから	107 (4.2)	52 (2.8)	55 (3.1)	51 (3.0)	51 (3.3)					
9. 先生や家族が勧めるから	84 (3.3)	69 (3.7)	60 (3.4)	60 (3.6)	42 (2.7)					
10. すぐに社会にでるのが不安だから、とりあえず進学する	263 (10.2)	191 (10.2)	179 (10.1)	162 (9.7)	114 (7.4)					
11. 多文化・異文化に関する知識の理解を深めたいから	—	102 (5.4)	103 (5.8)	103 (6.1)	109 (7.0)					
12. 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を深めたいから	—	52 (2.8)	41 (2.3)	36 (2.1)	47 (3.0)					
13. 日本語でのコミュニケーション・スキルを養いたいから	—	98 (5.2)	94 (5.3)	94 (5.6)	123 (7.9)					
14. 数量的に示された自然や社会的現象を理解する力を身につけたいから	—	15 (0.8)	9 (0.5)	9 (0.5)	8 (0.5)					
15. 自然や社会的現象について数量を用いて表現することができるようにしたいから	—	9 (0.5)	7 (0.4)	9 (0.5)	8 (0.5)					
16. ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できるようにしたいから	—	61 (3.3)	65 (3.7)	49 (2.9)	30 (1.9)					
17. ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力を身につけたいから	—	32 (1.7)	24 (1.3)	26 (1.6)	23 (1.5)					
18. 理論的に考える能力を身につけたいから	—	103 (5.5)	95 (5.3)	89 (5.3)	91 (5.9)					
19. 問題を解決する能力を身につけたいから	—	164 (8.7)	118 (6.6)	136 (8.1)	137 (8.8)					
20. 知識や情報を利用して問題を解決する力を身につけたいから	—	148 (7.9)	123 (6.9)	151 (9.0)	139 (9.0)					
21. 自らを律して行動できるようにしたいから	—	317 (16.9)	281 (15.8)	315 (18.8)	279 (18.0)					
22. 社会の一員としての意識を持つようにしたいから	—	169 (9.0)	161 (9.1)	202 (12.0)	155 (10.0)					
23. なんとなく	82 (3.2)	134 (7.1)	99 (5.6)	66 (3.9)	52 (3.4)					

■は最も人数が多かったもの。

□は最も人数が少なかったもの。

表3 クラブ・サークル活動

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
参加する (している)	1080	(42.2)	822	(44.1)	777	(44.0)	735	(43.9)	699	(45.2)
参加しない	146	(5.7)	98	(5.3)	103	(5.8)	76	(4.5)	70	(4.5)
わからない (決めていない)	1335	(52.1)	944	(50.6)	886	(50.2)	862	(51.6)	778	(50.3)

表4-1 入学したときの気持ち

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)
ぜひ入りたいと思って入学した	612	(24.4)	333	(18.9)	352	(21.0)	354	(21.9)	369	(24.8)
まあ満足して入学した	673	(26.9)	493	(27.9)	470	(28.0)	502	(31.0)	459	(30.9)
4年間の学生生活に期待して入った	653	(26.0)	488	(27.7)	488	(29.1)	434	(26.8)	402	(27.0)
やや不満だったが入学した	523	(20.8)	396	(22.4)	321	(19.2)	298	(18.4)	222	(14.9)
その他	48	(1.9)	54	(3.1)	45	(2.7)	32	(2.0)	35	(2.4)

表4-2 入試別の入学したときの気持ち

	一般入試受験者		推薦入試受験者	
	人数	(%)	人数	(%)
ぜひ入りたいと思って入学した	552	(14.2)	1169	(26.4)
まあ満足して入学した	1155	(29.8)	1266	(28.6)
4年間の学生生活に期待して入った	908	(23.4)	1342	(30.3)
やや不満だったが入学した	1146	(29.6)	568	(12.8)
その他	115	(3.0)	88	(2.0)

6. 大学を選ぶときに決め手にしたこと

大学を選ぶときに決め手にしたことを34項目の中から5つまで選択させた。その人数の分布を表6に示す。すべての年度で「学びたい学部・学科コースがある」(2008年度=38.6%, 2009年度=57.7%, 2010年度=55.2%, 2011年度=63.3%, 2012年度=66.7%)で最も人数が多かった。また、「専門教育が充実している」や「施設・設備が充実している」も選択した割合が高い。最も人数が少なかったのは2010年度を除いて「アルバイトをする場所が近くにある」で(2008年度=1.1%, 2009年度=2.1%, 2011年度=1.7%, 2012年度=1.4%), 2010年度は「おしゃれ」(1.6%)であった。この結果から、大学の雰囲気や立地よりも教育の質や学ぶ環境を決め手に大学を選んでいることが示唆される。

7. 5年間の変化

(1) 大学進学理由の変化

大学進学理由の5年間の変化を検討するために、分散分析を行った(表7)。その結果、18項目で有意な差がみられた。その後の検定の結果、「専門的な知識や技術を身につけたいから」や「将来のために資格や免許を取得したいから」などの学業に対しポジティブな理由の項目では2008年度の得点が低くなっていた。2008年度から2012年度までの5年間で少しずつ学生が目的をもって大学に進学してくるようになったことが推測される。

また、「学士力」の項目で有意差がみられたものは主に「態度・志向性」の項目で、2011年度と2012年度の得点が高い。大学生活において知識だけでなく“大人”、“社会人”としてのスキルを身につけたいと考えたいと思うようになっているの

表5 大学を選ぶときに重視したこと

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	平均値 (SD)	
1. 学びたい学部・学科コースがある	2.65 (0.57)	2.69 (0.55)	2.70 (0.53)	2.75 (0.52)	2.81 (0.46)					
2. 専門教育が充実している	2.30 (0.63)	2.38 (0.61)	2.40 (0.61)	2.45 (0.61)	2.49 (0.62)					
3. 幅広い教養が身につく	2.35 (0.64)	2.39 (0.77)	2.45 (0.61)	2.50 (0.61)	2.53 (0.60)					
4. 情報 (IT) 教育が充実している	2.09 (0.60)	2.10 (0.62)	2.16 (0.60)	2.16 (0.62)	2.15 (0.87)					
5. 実習・実験などが充実している	2.10 (0.60)	2.14 (0.62)	2.17 (0.62)	2.15 (0.63)	2.19 (0.65)					
6. 施設・設備が充実している	2.56 (0.61)	2.63 (0.58)	2.65 (0.55)	2.71 (0.52)	2.71 (0.54)					
7. キャンパスがきれい	2.41 (0.64)	2.50 (1.02)	2.53 (0.62)	2.54 (0.63)	2.54 (0.63)					
8. キャンパスが広い	2.62 (0.61)	2.64 (0.60)	2.67 (0.57)	2.70 (0.57)	2.66 (0.60)					
9. 交通の便が良い	1.99 (0.74)	1.99 (0.79)	2.07 (0.73)	1.95 (0.75)	2.03 (0.76)					
10. 自宅通学ができる	2.23 (0.81)	2.19 (0.83)	2.20 (0.82)	2.24 (0.83)	2.22 (0.85)					
11. 学費が安い	1.62 (0.62)	1.58 (0.66)	1.61 (0.61)	1.53 (0.60)	1.58 (0.61)					
12. 奨学金が充実している	1.83 (0.58)	1.88 (0.63)	1.91 (0.60)	1.82 (0.61)	1.86 (0.62)					
13. 就職支援体制が整っている	2.14 (0.64)	2.21 (0.66)	2.32 (0.64)	2.26 (0.64)	2.25 (0.71)					
14. 就職状況がよい	2.30 (0.64)	2.30 (0.66)	2.45 (0.62)	2.36 (0.65)	2.33 (0.65)					
15. 資格や免許取得に有利	2.23 (0.62)	2.27 (0.64)	2.35 (0.62)	2.33 (0.63)	2.35 (0.64)					
16. クラブ・サークル活動が盛ん	2.33 (0.67)	2.42 (0.66)	2.40 (0.66)	2.35 (0.67)	2.37 (0.68)					
17. 歴史・伝統がある	2.32 (0.68)	2.38 (0.96)	2.36 (0.66)	2.35 (0.68)	2.35 (0.68)					
18. 知名度が高い	2.26 (0.66)	2.25 (0.68)	2.30 (0.67)	2.31 (0.67)	2.33 (0.68)					
19. ブランドとしての魅力がある	1.91 (0.62)	1.90 (0.65)	1.94 (0.62)	1.93 (0.63)	1.94 (0.64)					
20. おしゃれ (な大学である)	1.93 (0.60)	1.96 (0.65)	1.98 (0.61)	1.93 (0.64)	1.93 (0.64)					
21. まじめ (そうな大学である)	1.85 (0.61)	1.81 (0.67)	1.84 (0.62)	1.77 (0.62)	1.88 (0.65)					
22. 活発 (そうな大学である)	2.24 (0.65)	2.31 (0.67)	2.34 (0.64)	2.29 (0.67)	2.33 (0.67)					
23. 明るい	2.30 (0.64)	2.37 (0.65)	2.42 (0.63)	2.36 (0.64)	2.39 (0.64)					
24. 周囲のよい大学	2.04 (0.58)	2.06 (0.77)	2.12 (0.58)	2.06 (0.59)	2.13 (0.61)					
25. 周囲の評判がよい	2.04 (0.61)	2.01 (0.64)	2.04 (0.61)	1.98 (0.64)	2.01 (0.62)					
26. 学生が多い	2.32 (0.68)	2.34 (0.71)	2.44 (0.67)	2.38 (0.70)	2.39 (0.71)					
27. 先生の勤め	1.98 (0.66)	1.94 (0.68)	2.03 (0.69)	1.98 (0.69)	1.97 (0.69)					
28. 保護者の勤め	1.92 (0.65)	1.84 (0.66)	1.94 (0.66)	1.90 (0.69)	1.90 (0.68)					
29. 家族や親戚の出身大学	1.77 (0.68)	1.67 (0.72)	1.66 (0.71)	1.62 (0.70)	1.61 (0.71)					
30. アルバイトをする場所が近くにある	1.72 (0.65)	1.66 (0.68)	1.66 (0.66)	1.56 (0.65)	1.57 (0.65)					
31. 遊ぶ場所が近くにある	1.84 (0.67)	1.80 (0.70)	1.80 (0.67)	1.67 (0.64)	1.69 (0.66)					
32. 偏差値 (難易度) が自分にあっている	2.20 (0.70)	2.19 (0.72)	2.24 (0.68)	2.22 (0.72)	2.30 (0.69)					
33. 自分にあっただ入試制度があっただから	2.22 (0.70)	2.27 (0.74)	2.29 (0.70)	2.33 (0.72)	2.32 (0.72)					
34. (推薦等で) 早く決まったから	1.97 (0.77)	1.91 (0.85)	2.00 (0.83)	1.91 (0.84)	1.89 (0.86)					

■は得点が最も高かったもの。

□は得点が最も低かったもの。

表6 大学を選ぶときに決め手にしたこと

	2008年度		2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)	人数 (%)
1. 学びたい学部・学科コースがある	991 (38.6)	1082 (57.7)	981 (55.2)	1061 (63.3)	1033 (66.7)					
2. 専門教育が充実している	372 (14.5)	444 (23.7)	406 (22.8)	460 (27.4)	454 (29.3)					
3. 幅広い教養が身につく	358 (13.9)	430 (22.9)	389 (21.9)	440 (26.2)	416 (26.8)					
4. 情報(IT)教育が充実している	139 (5.4)	140 (7.5)	128 (7.2)	128 (7.6)	112 (7.2)					
5. 実習・実験などが充実している	150 (5.8)	167 (8.9)	173 (9.7)	160 (9.5)	149 (9.6)					
6. 施設・設備が充実している	460 (17.9)	579 (30.9)	481 (27.1)	586 (34.9)	517 (33.4)					
7. キャンパスがきれい	266 (10.4)	360 (19.2)	338 (19.0)	326 (19.4)	250 (16.1)					
8. キャンパスが広い	466 (18.1)	530 (28.3)	468 (26.3)	442 (26.4)	325 (21.0)					
9. 交通の便が良い	152 (5.9)	153 (8.2)	142 (8.0)	129 (7.7)	118 (7.6)					
10. 自宅通学ができる	365 (14.2)	422 (22.5)	381 (21.4)	413 (24.6)	364 (23.5)					
11. 学費が安い	54 (2.1)	70 (3.7)	58 (3.3)	45 (2.7)	49 (3.2)					
12. 奨学金が充実している	46 (1.8)	72 (3.8)	62 (3.5)	49 (2.9)	45 (2.9)					
13. 就職支援体制が整っている	116 (4.5)	164 (8.8)	186 (10.5)	164 (9.8)	136 (8.8)					
14. 就職状況がよい	247 (9.6)	338 (18.0)	376 (21.2)	345 (20.6)	247 (15.9)					
15. 資格や免許取得に有利	229 (8.9)	249 (13.3)	257 (14.5)	266 (15.9)	256 (16.5)					
16. クラブ・サークル活動が盛ん	339 (13.2)	446 (23.8)	382 (21.5)	321 (19.1)	296 (19.1)					
17. 歴史・伝統がある	185 (7.2)	246 (13.1)	176 (9.9)	203 (12.1)	165 (10.7)					
18. 知名度が高い	158 (6.2)	191 (10.2)	170 (9.6)	180 (10.7)	143 (9.2)					
19. ブランドとしての魅力がある	44 (1.7)	45 (2.4)	36 (2.0)	28 (1.7)	35 (2.3)					
20. おしゃれ(な)大学である	36 (1.4)	39 (2.1)	29 (1.6)	36 (2.2)	27 (1.7)					
21. まじめ(そうな)大学である	34 (1.3)	54 (2.9)	44 (2.5)	45 (2.7)	51 (3.3)					
22. 活発(そうな)大学である	118 (4.6)	193 (10.3)	143 (8.0)	142 (8.5)	134 (8.7)					
23. 明るい	95 (3.7)	161 (8.6)	132 (7.4)	117 (7.0)	87 (5.6)					
24. 面見のよい大学	36 (1.4)	52 (2.8)	71 (4.0)	53 (3.2)	54 (3.5)					
25. 周囲の評判がよい	50 (2.0)	51 (2.7)	51 (2.9)	43 (2.6)	55 (3.6)					
26. 学生が多い	120 (4.7)	177 (9.4)	164 (9.2)	147 (8.8)	117 (7.6)					
27. 先生の勤め	77 (3.0)	101 (5.4)	131 (7.4)	103 (6.1)	103 (6.7)					
28. 保護者の勤め	46 (1.8)	51 (2.7)	68 (3.8)	78 (4.7)	64 (4.1)					
29. 家族や親戚の出身大学	33 (1.3)	66 (3.5)	45 (2.5)	59 (3.5)	53 (3.4)					
30. アルバイトをすする場所が近くにある	28 (1.1)	39 (2.1)	34 (1.9)	29 (1.7)	22 (1.4)					
31. 遊ぶ場所が近くにある	65 (2.5)	70 (3.7)	61 (3.4)	34 (2.0)	36 (2.3)					
32. 偏差値(難易度)が自分にあっている	258 (10.0)	404 (21.6)	328 (18.5)	311 (18.6)	351 (22.7)					
33. 自分にあつた入試制度があつたから	193 (7.5)	292 (15.6)	234 (13.2)	239 (14.3)	241 (15.6)					
34. (推薦等で)早く決まつたから	168 (6.5)	234 (12.5)	227 (12.8)	198 (11.8)	174 (11.2)					

■は最も人数が多かったもの。

□は最も人数が少なかったもの。

表7 「大学進学の原因」の分散分析結果

	F 値	
1. 専門的な知識や技術を身につけたいから	16.22 ***	2008<2012
2. 専攻する学問を研究したいから	25.26 ***	2008<2009≒2010≒2011<2012
3. 将来のために資格や免許を取得したいから	11.89 ***	2008<2009≒2010≒2011≒2012
4. 幅広い教養を身につけたいから	27.36 ***	2008<2009<2011
5. 社会に出たとき、学歴が必要だから	16.07 ***	2008<2009≒2010≒2011≒2012
6. 安定した職業に就くためには学歴が必要だから	13.45 ***	2008<2009≒2010≒2011≒2012
7. 学生生活を楽しみたいから	3.82 **	2008<2012
8. 周囲のみんなが行くから	5.04 ***	2011≒2008≒2012<2010
9. 先生や家族が勧めるから	7.22 ***	2008<2010
10. すぐに社会にでるのが不安だから、とりあえず進学する	5.01 ***	2008≒2011≒2012<2010
11. 多文化・異文化に関する知識の理解を深めたいから	0.77	
12. 人類の文化、社会と自然に関する知識の理解を深めたいから	2.96 *	2009<2012
13. 日本語でのコミュニケーション・スキルを養いたいから	12.14 ***	2009≒2010≒2011<2012
14. 数量的に示された自然や社会的現象を理解する力を身につけたいから	0.28	
15. 自然や社会的現象について数量を用いて表現することができるようになりたいから	1.25	
16. ICTを用いて多様な情報から適切な情報を収集できるようにしたいから	1.31	
17. ICTを用いて収集した情報をモラルに従って効果的に活用する力を身につけたいから	1.97	
18. 理論的に考える能力を身につけたいから	8.57 ***	2009≒2010<2012
19. 問題を解決する能力を身につけたいから	12.10 ***	2009≒2010<2011≒2012
20. 知識や情報を利用して問題を解決する力を身につけたいから	16.88 ***	2009≒2010<2011≒2012
21. 自らを律して行動できるようにしたいから	10.94 ***	2009≒2010<2011≒2012
22. 社会の一員としての意識を持つようになりたいから	7.51 ***	2009<2012
23. なんとなく	10.48 ***	2011<2012<2010

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

ではないだろうか。

(2) 大学を選ぶときに決め手にしたことの変化

大学を選ぶときに決め手にしたことの5年間の変化を検討するために、分散分析を行った(表8)。その結果29項目で有意な差がみられた。その後の検定の結果「学びたい学部・学科コースがある」

や「専門教育が充実している」といった教育内容と関連する項目では2008年度の得点が低い。「就職支援体制が整っている」や「就職状況がよい」といった就職に関連する項目も2008年度は得点が低く、年々進学の際に重要視されてきているといえよう。ここでも学生が年々目的をもって大学に

表8 「大学を選ぶときに決め手にしたこと」の分散分析結果

	F 値		
1. 学びたい学部・学科コースがある	22.60	***	2008<2009≒2010≒2011<2012
2. 専門教育が充実している	23.16	***	2008<2009<2012
3. 幅広い教養が身につく	21.02	***	2008<2012
4. 情報(IT)教育が充実している	4.51	**	2008<2010≒2011≒2012
5. 実習・実験などが充実している	6.07	***	2008<2012
6. 施設・設備が充実している	21.01	***	2008<2009≒2010<2011≒2012
7. キャンパスがきれい	12.06	***	2008<2009<2010≒2011
8. キャンパスが広い	3.25	*	2008<2011
9. 交通の便が良い	5.99	***	2011<2010
10. 自宅通学ができる	0.66		
11. 学費が安い	5.32	***	2011<2010≒2008
12. 奨学金が充実している	6.37	***	2008≒2011<2010
13. 就職支援体制が整っている	19.71	***	2008<2009≒2011≒2012<2010
14. 就職状況がよい	15.52	***	2008≒2009≒2011≒2011<2010
15. 資格や免許取得に有利	12.02	***	2008<2010≒2012
16. クラブ・サークル活動が盛ん	5.94	***	2008<2009
17. 歴史・伝統がある	2.02		
18. 知名度が高い	2.87	*	2008<2012
19. ブランドとしての魅力がある	1.14		
20. おしゃれ(な大学である)	2.57	*	
21. まじめ(そうな大学である)	7.08	***	2011<2012
22. 活発(そうな大学である)	6.76	***	2008<2009≒2010≒2012
23. 明るい	6.92	***	2008<2009≒2010≒2012
24. 面倒見のよい大学	6.31	***	2008<2012
25. 周囲の評判がよい	1.96		
26. 学生が多い	8.53	***	2008<2010
27. 先生の勧め	3.71	**	2009<2010
28. 保護者の勧め	5.34	***	2009<2008≒2010≒2012
29. 家族や親戚の出身大学	14.82	***	2009≒2010≒2011≒2012<2008
30. アルバイトをする場所が近くにある	17.02	***	2011≒2012<2009<2008
31. 遊ぶ場所が近くにある	17.64	***	2011≒2012<2008≒2009≒2010
32. 偏差値(難易度)が自分にあっている	5.31	***	2008≒2009≒2011<2012
33. 自分にあった入試制度があったから	6.14	***	2008<2010≒2011≒2012
34. (推薦等で)早く決まったから	5.26	***	2009≒2011≒2012<2010

* $p < .05$ ** $p < .01$ *** $p < .001$

進学しているようになっている傾向がみられ、将来の見通しをもって進学してくるようになったことが推測される。この傾向は前述の大学進学の原因で「態度・志向性」の得点に変化していることから裏付けられよう。

8. まとめ

以上の結果をまとめると次の4点の特徴を指摘できる。①大学進学や大学選びで重視することは学びたい学部で取得できる資格や免許を得るためであることは5年間変わらない。②ただし、その傾向は年々強くなっている。③また、就職を意識する傾向も年々強くなっており、④より目的をもって大学進学を考えるようになっている。

この傾向の背景に就職決定の難しさがあると思われるが、その確認については今後の検討課題である。

引用文献

- 京都大学高等教育研究開発推進センター (2011). 「大学生のキャリア意識調査2010」結果報告書 公益財団法人電通育英会 2011年 < http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/files/research/pdf/2011_researchreport_01.pdf > (2012年12月22日)
- 文部科学省 (2012). 平成24年度学校基本調査 (速報値) の公表について 文部科学省 2012年8月30日 < http://www.mext.go.jp/component/b_menu/houdou/_icsFiles/afiel_dfile/2012/08/30/1324976_01.pdf > (2012年12月22日)
- 二宮克美・高橋彩・桑村幸恵・稲葉小由紀・山本ちか・宮沢秀次 (2006). 大学生の大学授業観 (3) - 進学動機、学部違和感、大学生生活不安感との関連 - 愛知学院大学情報社会政策研究, 第8巻, 第2号 13-22.

<付記>

本調査は、愛知学院大学高等教育研究所における研究活動の一環として実施された。調査の実施にあたっては教務課職員の協力を得た。記して感謝します。

Abstract: The present study is the 5 years continuous survey from 2008 school year concerning the awareness of freshmen at the entrance into Aichi Gakuin University. The participants were 9,449 students who major mainly social and human sciences in university. Main results were as follows. (1) There were no changes of the reason to go to university in five years. (2) The most selected reason was to obtain the licenses and certifications. This trend is getting stronger every year. (3) The point to selection of university was whether university has the department, subjects and courses which students want to study. (4) The tendency in the consciousness of employment has become stronger year-by-year. Students become thinking about the purposes when they go to university.

keywords: awareness of freshmen, reason to go to university, consciousness of employment, continuous survey, University students.

<訂正のお願い>

著者：杉山佳菜子・二宮克美・竹市良成・小出龍郎

論文名：大学生の「学士力」自己評価と大学授業観の変化—2008年度卒業生から4年間の調査より—

掲載頁：愛知学院大学・総合政策研究 第15巻, 第1号 (2012), p.23

Table 6 授業観タイプの人数分布 の左欄 (下線部)

誤	正
要求実直	要求実直
<u>わがまま</u>	⇒ 受容勉学
なりゆき	なりゆき
<u>受容勉学</u>	⇒ わがまま

